

平成27年1月13日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	隠岐島前高等学校	氏名	梶裕典
派遣先 団体名	海士町教育委員会		

① 研修の日時

平成26年7月28日(月)～8月2日(土) 8:30～17:15

参加生徒29名 大人スタッフ64名

② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)

アドベンチャーキャンプスタッフとして、参加者の活動補助。

アドベンチャーキャンプとは、海士町内の小学生、中学生、県外小学生を対象とした、夏季合宿で、今年18回目の開催となる。既存のキャンプ場は使用せず、一般道、港から離れた海岸(ライフラインは何一つないため、無人島のようになる)に一週間寝泊りさせ、期間中子どもたちはそこから離れることができず、水道、風呂、かまど、便所等生活に必要なものは大人の協力のもとすべて手作りする。食品等の搬入は1日に1回あるが、魚・貝等を採り食事することもある。

このキャンプは子どもたちが達成することが目的ではなく、協調性ややり遂げようという自主性を育てることを目的とするため、大人は基本的に、手出し、口出しをせず、子どもたちを見守る役目に徹する。

(補助活動の例) 生ごみ廃棄用の穴掘り、ドラム缶風呂づくり、かまどづくり・調理補助、いかだづくり、海遊びの監視。



宿泊地遠景



炊事風景



子どもが熱中症にならないように、遮光ネットを設置

③ 研修の感想

(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

キャンプ開始前に一番不安に感じていたのが、子どもの安全を守ることだった。日常の業務では高校生を相手にしているが、キャンプの対象は小学生がほとんどである。キャンプ中はいかだレース、高台からの飛び込み、魚介の採取など多くのプログラムが用意されており、水の事故、火事、子ども同士のけんかなど数限りなく緊急事態が考えられた。

しかし、実際にキャンプが始まると、海士町の子どもたちは力強く、なんでもこなしていく。トラブルが起きても班の年長者がリーダーとなり、自分たちで解決している。まさに大人たちは見守り人であり、子どもたちの自立性を感じた。

スタッフには海士町内小学校の教員もいたため、小学生への声かけ方法、活動への促し方、注意の仕方などを学ぶことができた。

また、何も無い海岸に人が一週間生活するには、多くの設備が必要である。テント、トイレ、沢から水を引っ張ったドラム缶風呂など居住設備だけでも非常に手間がかかるうえ、教育委員会の本部からは1週間分の食材を用意して供給していた。これほどのイベントをするには、多くのスタッフとノウハウが必要だが、18年の経験が蓄積されているためかスムーズな運営がなされており、また子どもたちに対する教職員の熱意を非常に感じた研修だった。

④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

キャンプ中は勤務先を1週間空けることになるため、自分で仕事のペースを調整しておく必要がある。

(注)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。